



えいらい

No.51

令和 4 年 5 月発行

発行元／一般財団法人永頼会 松山市民病院

春号
2022日本医療機能評価機構
認定第 JC300 号

〒790-0067

愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5

TEL / 089-943-1151

FAX / 089-947-0026

発行責任者／理事長 山本祐司

編集／松山市民病院広報委員会

今号のトピックス

- ◇巻頭言 新年度を迎えて
- ◇臨床の現場から
- ◇看護部長就任の挨拶
- ◇ボランティア通信
- ◇新任医師紹介
- ◇The Specialist : 薬剤部
- ◇画像センター機器紹介
- ◇連携医療機関の紹介
- ◇仕事疲れの特効薬
- ◇お知らせ

撮影：臨床検査室 赤松 紀代（長浜大橋）

新年度を迎えて

副院長 田中 良憲



COVID-19 がなかなか収束せず。とうとう 2022 年になってしまいました。前回私がこの「えいらい」に書かせていただいたのが 2020 年秋号でした。当時は COVID-19 流行の 1 年目で、多くの国でロックダウンが行われている状況でした。

その時から比べると、ワクチン、点滴、内服薬とコロナウイルスに対する治療法も増え、また、いろいろな知見も集まってきました。2021 年 12 月頃、第 5 波と第 6 波の間には愛媛のコロナ発症が 0 人の日が続き、なかなか会えなかった人たちに会うことが出来た事と思います。しかし、その後第 6 波が到来し、いまだに新型株の話がでるなど、先行きが見えない状況が続いています。

当院でも今年 1 月 24 日にクラスターが発生し、患者さんほか各所に多大なご迷惑をおかけいたしました。一時期には新規外来診療や入院、手術について制限を行って

ましたが、幸いにもクラスターは職員 10 名の感染で収まり、2 月 1 日には規制を解除し、病院機能を通常運用へ復旧させることが出来ました。

このような状況ではありますが、2024 年から医師の「働き方改革」が始まるため、準備を進めています。松山市の救急医療を担っている当院では、どうしても医師の負担が多くなっていましたが、今後は「合理的な働き方で適切な勤務時間にする」事が必要になってきます。実際にはタスクシェアやチーム医療に取り組み、医療の質を落とさず改革していきたいと考えております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

また、当院では現在 BCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) の策定を行っております。これは「震災などの緊急時に低下する業務遂行能力を補う非常時優先業務を開始するた

めの計画」です。実際には病院が地震などの自然災害、火災などの緊急事態に遭遇した時に対応できるような体制を準備しておく事になります。特に愛媛県は 30 年以内にマグニチュード 8 ～ 9 クラスの南海トラフ大地震が 70% ～ 80% の確率で発生すると言われています。いざ災害が起こってからでは対応が難しく、平時から準備が必要です。これに合わせて本年は防災訓練を 9 月に予定しております。災害時でも地域の方から頼られる病院になるよう取り組んでいきたいと考えております。

今年度、当院でも 40 名の新入職員を迎えました。コロナに加え、ロシアのウクライナ侵攻・物価上昇など困難な社会環境のなかでの新たな職場での生活を始めることは大変かと思います。そろそろこのトンネルをぬけることを期待して、日々の診療を頑張っていきたいと思っています。